

近森リハビリテーション病院 看護部

看護部長 松永智香

看護部目標

「地域のニーズに応えられる看護の進化/深化」

岡本統括部長が、大会長を務める「第 29 回学術集会: 2024 年 6 月 29 日(土)～30 日(日)高知市文化プラザかるぼーと: 老年看護のしんか―進化・深化・真価―」を受け、近森会の看護部目標は“しんか”とした。その目標を受け、近森リハビリテーション病院看護部は、「患者・家族のニーズと実生活に即した退院支援」を掲げ、患者・家族のセルフケア(自分自身のために、自分で決めて活動する)を支援するというスローガンのもと、その人らしく生きることを支援するために適切な退院支援を実施することとした。

回復期リハビリテーション病棟の入院基本料 I での改善率とは、患者の状態改善を示すリハビリテーション実績指数で評価されており、具体的には、リハビリテーション実績指数が 40 以上であること、そして重症者の 30%以上が改善することが求められている。また、在宅復帰率は 70%以上を目指すようになっており、これらの数値目標と患者・家族の満足度の向上がアウトカム指標となる。退院支援のアウトカムをこのように考えるならば、達成していると考えることができる。しかしながら、患者・家族の満足度を高めていくことは、今後も継続する必要がある。

人事

4 月に看護部長の交代、新たに 1 名の副看護部長(業務の効率化担当)が加わり、副部長 2 名体制となり、組織強化を図った。また、多様なシステムにおける効率化を図り、ウエルビーング経営を目指すようにした。感染担当部長が、研修受講のため、4 西の主任が代行した。7 月 1 日から特定技能生が 2 名、2025 年 2 月から特定技能生 3 名、技能実習生 3 名の受け入れをした。そのほかの人事は以下。
入職者: 新卒新採用看護職 3 名 中途採用看護職 5 名 看護補助者 2 名 歯科衛生士 1 名
退職者: 2 名(キャリア開発目的) 介護福祉士専門学校の学生アルバイト 3 名雇用

業務

近森会に看護 DX 部が構築され、そのメンバーを副看護部長が兼任し、リハビリテーション病院に新たな風を吹かせてくれた。DX のみならず、システム上のボトルネックの解消なども実践した。別途報告。

教育

新たな回復期リハビリテーション認定看護師が 1 名、認定看護管理者の更新、高知大学の感染看護特定認定課程を 1 名受講した。他には、学会発表や院内の事例検討会が積極的に実践された。教育担当シニア師長より、別途報告する。

看護部の組織貢献

2025 年 5 月より、4 階西病棟(25 床)を入院基本料ⅢからⅠに変更すべく対応。夜勤専従看護師の活用を試みた。看護職の離職防止に務めてきた。また、現在稼働している 160 床を満床にすることを目標としてきた。R6 年 3 月 148.38 人/日 ➡ R7 年 3 月 150.75 人/日

今後の課題

VUCA の時代(Volatility(変動性)、Uncertainty(不確実性)、Complexity(複雑性)、Ambiguity(曖昧性)の 4 つの要素)と言われる。柔軟な対応力、変化への適応力、問題解決能力、学習意欲、リーダーシップ、デジタルスキルの習得など VUCA 時代は、企業だけでなく、個人にとっても、変化に対応し、成長していくための重要な時代だと言われている。近森会グループと近森リハビリテーション病院の安定した経営と回復期リハビリテーション看護のサービス質向上を目指し、2025 年度もチーム一丸となって頑張っていく予定である。

近森リハビリテーション病院 医療安全委員会

副看護部長 岡村奈保

はじめに

患者に信頼される医療サービスの提供と医療の質向上を求めていくことを医療安全委員会の基本姿勢として活動を行っている。基本姿勢に基づき医療安全活動の必要性・重要性を院内の全部署及び全職員に周知徹底し院内共通の最重要課題として取り組みを行っている。

活動内容

- インシデント・アクシデント事例の共有、および医療安全カンファレンスの開催によりインシデント・アクシデント要因の振り返りを行い同じ事故または、重大事故につながらないための情報発信を行っている。
- 研修会の開催により、医療安全への意識向上を行っている。
(研修会内容)
 - *2024 年 9 月『安全を考える』医療安全の基本、2023 年度の振り返り、危険予測
 - *2025 年 2 月『転倒と薬剤』2024 年の転倒状況、転倒に関連する薬剤、薬剤の使い方

まとめ

2024 年度医療安全目標を『転倒による損傷(骨折)が発生しない』『インシデント報告件数を増やす』を挙げ取り組んだ。

転倒率は、昨年より若干減少している。『転倒による損傷(骨折)が発生しない』に関しては、転倒による骨折が 4 件発生。ころやわマットを導入し、転倒時の損傷を防止する対策をとっているが、ころやわマットのないところでの転倒受傷に至っている。研修会の開催、毎月の転倒発生状況の共有による転倒防止への意識付けを行った。

転倒率^{※1}： $\frac{\text{転倒・転落発生件数}}{\text{のべ入院患者数}} \times 1000 (\%)$

	2024 年	2023 年	全国平均： 日本病院会 2021 年データ
転倒率 ^{※1}	4.08‰	4.11‰	2.82‰

『インシデント報告件数を増やす』に関しては、昨年 725 件の報告があったが、2024 年は 721 件と減少している。報告しやすい手書きヒヤリハット報告書の活用、GOOD JOB 報告を推奨し年末表彰を行った。今後も重大事故を未然に防ぐためにインシデント報告を増やすように広報する。

2025 年度に向けて

- ☐ 転倒によるアクシデント減少
 - ☐ インシデント報告件数増加
- 積極的なインシデント報告ができるように各部と連携し報告数の増加と分析により効果的な対策が立てていく。

近森リハビリテーション病院看護部

副看護部長 永野 智恵

業務改善

看護業務に関して、病棟ラウンドや主任会、インシデント報告に出てきた情報をもとに改善すべきシステムを抽出し、現状の問題を明らかにしました。問題の根底には、新しい情報がキャッチされず昔ながらの作業を行っていること、根拠なく誰かに要望されるままに業務を請け負う事で不要な作業が発生している状況がありました。

近森グループで標準的に活用すべき業務について、手順を作成し各病棟へ説明。他部門が関連している場合は、部門長へ業務の修正について相談し修正を行いました。結果、現場のスタッフから、仕事がし易くなったとの声が聞かれるようになりました。

業務改善事項

- 酸素のコストに関連した記録の簡略化
- ケア項目を活用した記録への移行
- NST、褥瘡評価の見直し
- 看護師記録の指針見直し
- 看護手順改訂
- 看護補助者業務区分作成：派遣（管財・ルフト）、障害者、当院補助者
- 学生アルバイト業務内容作成
- 近森病院外来受診に関して、近森病院診療科部長（内科・形成外科・整形外科・脳外科）へ相談。→可能な範囲（特殊検査等がない場合）は、カルテ診察または往診となりました。
- エラン導入
- 石原産業レンタル・洗浄申請を電子申請へ移行（購買管理課、リハ部、石原産業と検討）

DX 検討

システム	トライアル期間	評価
眠り SCAN	2024 年 10 月～トライアル開始、 3 ヶ月毎に病棟を変更 3 東 5 東 5 西	巡視の負担軽減や患者の睡眠に合わせた排泄誘導・介助ケア、医師と共に睡眠状態をアセスメントし薬剤コントロールを行うなど看護業務や患者の退院支援に向けた環境調整に活用出来ている。 また、身体拘束解除に向けた取り組みとしても活用している
インカム	2025 年 2 月 10 日～2 月 25 日	トライアル中に COVID 対応あり、RED ゾーンと

		ステーション間での情報共有や協力を役立った。 NS コール対応の協力や共有に活用できた
入浴装置		➤ 3 社（パラマウント・エア・ウォーター・biami）の入浴装置を比較。 ➤ 機能性・入浴者の満足度が最も高かったのはパラマウント社 ➤ メリット：介助者の身体的負担軽減、腰痛予防、患者 1 人に掛かる入浴時間の短縮、患者の入浴による負担の軽減、洗浄・保温効果、転落リスクの回避がある。 ➤ デメリット：設置に工事が必要なため費用が高額である。

診療報酬、入院基本料に係わる取り組みについて

- 認知症マニュアル作成
- せん妄アセスメントシート作成及び運用を作成し、スタッフへの説明と周知を行いました。
- ACP 指針・マニュアル作成。標準的なマニュアルを作成したため、今後は自院に合わせたマニュアルに改訂していく必要があります。

院内勉強会開催

- ACP について：人生会議の You Tube 動画の閲覧
- 二次性骨折予防に関する勉強会の開催 講師：オルソ病院 関主任
- DX について 対象：師長・主任

近森リハビリテーション病院 入退院支援

入退院支援担当シニア看護師長 岡部 美枝

入院基本料1の要件を満たす条件として、重症患者割合、重症患者改善率、在宅復帰率については、近森病院からの受け入れ患者が対象とならないとの通達と、オルソリハビリテーション病院の病床が回復期リハ病棟から地域包括ケア病棟へ変更となったことの2点により、受け入れ患者の割合が大きく変わった一年であった。近森病院から脳外科重症患者を受け入れることが難しくなり、他院から重症患者を受け入れる必要があるため、往診などで確認しながら受け入れを進めた。また、年度後半では満床に近い状態が続き、相談件数に対して受け入れることができないケースが多く発生した。

【外来】

新規患者数：131名（前年比+20名）

延べ患者数：2818名（前年比-68名）

【地域連携】

相談件数合計:近森：522件 院外：403件

前年比：近森：-15件 院外：+47件

入院件数：近森：334件 院外：298件

前年比：近森-6件 院外：+58件

病床稼働率：82.1%

当院からのお断り件数：119件

急性期病院からのキャンセル件数：177件

年末から年度末にかけ満床に近い状況が続き、他院への転院並行相談を依頼するケースが増えた結果、キャンセル件数が増加する結果となったと考えられる。

今後の課題

2025年度より全病棟が入院料1の届け出となる予定。重症患者割合の維持が難しい状況であるが、病棟管理者とともにコントロールしていく。また、少しでも病床稼働率を維持できるように、ケア度の確認を実施しながら、受け入れ患者についても院長と相談していきたい。

近森リハビリテーション病院 看護部 教育

教育担当シニア看護師長 中村里江

1. 新人看護師教育担当者会活動

当会は、4 月に入職した新人看護師のジェネラリスト教育だけでなく、他院から入職してきた既卒看護師に対しても回りハ新人看護師研修を行い、当院のケア業務にスムーズに適応できるための教育支援を行っている。

1) 新人看護師の教育支援

(1) 活動実績

2024 年度は、新人看護師 3 名が入職し、さらに年度途中で 2 名の新人看護師が入職してきたため、計 5 名の新人看護師の支援を中心に活動した。2023 年度は新人看護師の入職がなかったため、教育担当者会メンバーが半減されていたが、2024 年度は例年と同数のメンバーが配置され、活動することができた。

①ラダーレベル I 集合研修（ジェネラリスト教育）

教育担当者が企画運営し、クリニカルラダーレベル I をめざすための研修を行った。一部の研修は近森病院の新人看護師研修と合同で行った。教育担当者は、集合教育と OJT をつなぎ、所属部署で新人看護師と実地指導者を支援する活動も行っている。また 2024 年度も昨年度と同様に、研修効果を高めるため e ラーニングを補助的に取り入れた。

②回復期リハビリテーション看護新人研修

このプログラムは、新人看護師を含め回復期リハビリテーション病棟入職 1 年目のスタッフを対象とし、当院入職 1 年目のスタッフが業務やケアを実践する上で必要な回復期リハビリテーション看護の基本的知識や技術を学ぶプログラムである。講義担当は回復期リハビリテーション病棟協会から認定を受けた「回復期リハビリテーション看護師」が主に担っている。

2024 年度は、このプログラムに新人看護師、既卒中途採用看護師、法人内からの異動看護師、合計 10 名が参加した。年度途中からの参加となった場合、未受講の講義については状況により OJT でのレクチャーで補いつつ、次年度の研修プログラムに参加してもらうことにしている。

①、②の研修実績を表 1 に示す。

表 1 2024 年度 レベル I 新人看護師研修、回復期リハ看護新人研修 実績一覧

	開催月	テーマ	担当
新人看護師研修（ラダーレベル I）	4 月	入職時新人研修	新人教育担当者
	5 月	点滴静脈注射技術研修	新人教育担当者
	6 月	放射線・検査・システム・図書・夜勤について	教育代表者会
	7 月	急変時の対応①（BLS）	新人教育担当者

	9 月	急変時の対応②（ハートコール）	新人教育担当者
	9 月	褥創ケア	近森病院 WOC 認定看護師
	10 月	看護倫理・社会人基礎力	教育代表者
	10 月	多重課題研修	新人教育担当者
	11 月	看護過程・ケースレポートの書き方	教育代表者・新人教育担当者
	12 月	急変時の対応③（急変に至る兆候への対応）	新人教育担当者
	1 月	点滴静脈注射技術評価研修	新人教育担当者
	2 月	看護要約の書き方	回りハ看護師（認定）
	2 月	振り返りの会	教育代表者・新人教育担当者
	3 月	ケースレポート提出	
新人看護師研修（リハビリテーション看護）	4 月	近森リハビリテーション病院新入職員研修	近森リハビリテーション病院 教育研修委員会
	5 月	回復期リハ病棟における排尿ケア	実地指導者
	5 月	回復期リハ病棟における排便のケア	回りハ看護師（認定）
	6 月	回りハ病棟における脳卒中患者の看護	看護主任
	6 月	回復期リハ病棟の基本的ケア①～⑤	看護師長
	7 月	日常生活機能評価研修	看護主任
	8 月	回復期リハ病棟の基本的ケア⑥～⑩	看護師長
	9 月	高次脳機能障害の看護	回りハ看護師（認定）
	10 月	回りハ病棟における看護過程	回りハ看護師（認定）
	11 月	うつの看護	近森病院精神科 看護師

（２）評価と課題

レベルⅠ研修は必須研修として位置づけているため、受講者が体調不良等で出席が困難になった場合には日程調整などを早めに行い、できるだけ全員が受講できるよう努めた。

年度途中からの入職者に対しては、次年度に向けて研修参加と技術習得をめざし、病棟管理者と本人が目標と計画を設定できるよう教育担当者が支援した。

技術チェックリストで示されている技術の習得の時期は個人差が大きかったため、OJTでの個別指導に教育担当者が尽力した。若い世代の特性を理解しながら業務を遂行する中で知識と技術を獲得し、ケア対象を理解してニーズに合ったケアを提供しつつ時間管理や多重課題に対応できる力を育てていく関わりについて、毎月の教育担当者会で活発な意見交換を行うことができたが、その成果を可視化して次に繋げる作業が十分にできていなかったため、次年度以降の課題としたい。

２）２年目～３年目看護師の教育支援

（１）活動実績

2022 年度より、「2～3 年目看護師技術チェックリスト」を導入し、運用している。

対象者は、レベルⅠに到達している 2 年目～3 年目看護師である。看護技術チェック表を作成し、未習得の技術項目の習得をめざすとともに、技術の評価・課題の明確化・目標設定・到達に向けての行動計画を立案する一連のプロセスを、所属部署の実地指導者・教育担当者・病棟管理者と共有することで、1 年目と同様に組織の中で支援をうけながら育っていく仕組みを作ることが目的としたものである。チェックリスト項目は 1 年目の技術チェックリストと同じ項目を使用し、評価時期や方法については新たに手順を作成した。部署全体で取り組むことを前提に、運用のマネジメントを部署の教員担当者に依頼した。評価時期は前年度と同様に、年 2 回（9 月、3 月）とした。

（2）評価と課題

3 名の対象者に対して支援を行った。各実地指導者がチェックリストで評価を行い、未到達技術について OJT 計画を立てて支援を行った。

2023 年度より新たに導入して、以下のような①②の課題が明らかになっていたが、2024 年度は、リストや運用方法の改善ができないうままであった。しかしながら、対象者は技術体験の機会を得ながらある程度習得できたようであり、日常業務を行う上で困ったという報告はなかった。よって、次年度には少しずつ改善を加えながら、定着を目指し、成果の評価を行っていった。

- ① 技術項目の中には、当院では経験する機会がほとんどないかあるいは一度経験しても次に経験するまでに期間が空くことで、1 年目に到達していた技術項目でも、現在は自立して実施できない技術項目が見られた。
- ② チェック表はジェネラリストの一般的な技術項目で構成されているため、当院で 2 年目以降に身に付けてほしいリハ看護技術について評価できない仕様となっている。

2. 近森リハビリテーション病院看護師教育委員会活動

（1）活動実績

2023 年度に引き続き、教育委員が 4 つのテーマで集合研修を企画運営評価した。（表 3）

<2024 年度 リハ病院看護師教育委員会 勉強会テーマ>

- ①退院支援 ：事例検討会
- ②急変時の対応技術
- ③急変に至る兆候とその対応
- ④抑うつ看護

表 2 看護師教育委員会勉強会

月 日	テーマ
①退院支援 （事例検討会）	
10 月 4 日	脊髄損傷患者の退院支援～繰り返した褥瘡への多職種での取り組み～
11 月 1 日	鬱病、パーキンソン病の既往のある患者の退院支援

1月17日	生活リズムを整えるための看護援助について
2月7日	介助依存が強く介助が必要だが、回復意欲が高い患者への関わりについて
②急変時の対応技術	
10月18日	急変対応についてー急変患者発見から搬送までー
③急変に至る兆候と対応	
11月15日	脳卒中再発の兆候とその観察
④抑うつ看護	
12月6日	抑うつ・認知症の精神症状に対するケアー当院で使用する薬剤の知識を中心にー

（２）評価と課題

①退院支援（事例検討会）

2024年度は、前年度より1事例増えて、計4回開催することができた。各病棟から1事例を提供してもらう形となった。事例提供をしてもらうにあたり、教育委員は自部署で病棟管理者とともに事例提供者の資料作成支援を行う体制とした。

前年度と同様に、参加者は多くはないが、全員が発言し、気づきや学びを共有する機会となり、アンケートの満足度も高かった。新たな試みとして、事例のケアや治療に関わりのある職種にも参加してもらい、事象に対する最新の知見や事例に関する情報を提供してもらった上で意見交換を行うことができた。現場の実践の最中では見えてなかったことや違った視点からの捉え方で対象理解を深めることができたように思う。さらに、事例検討会を導入して2年目であるが、事例検討会の展開の仕方についても教育委員からさまざまな工夫点が提案されたことは大きな成果であった。参加したスタッフがそれぞれに良い体験を得られるよう、次年度に向けて工夫をしていきたい。

②急変時の対応

前年度完成させた自作の動画を院内のポータルサイトを活用していつでも視聴できるように環境を整えた。その環境を利用して事前学習を取り入れ、集合研修でシミュレーションを実施した。集合研修でも直前に動画視聴を行ってから演習に入った。その結果、アンケートでは「非常にわかりやすかった」、「理解しやすかった」という反応が多数みられた。

動画内容は、当院の実際の病室の環境や手順、体制を再現して作成しており、実際の動きや役割がイメージしやすかったことが受講者の学習成果と満足度を高めていたようである。受講者数も20名近くと、他の研修参加者数よりも多く、学習ニーズの高さがうかがえるが、年1回の開催であったため、ニーズに対応できていない状態である。

今後の課題として、開催数を増やすこと、定期的な開催、多職種と協働で行われる手順については心肺蘇生委員会と協力して企画運営をする必要性、動画視聴を効果的に活用していく工夫と動画内容のアップデートなどが挙げられる。

③急変に至る兆候への対応

講師は昨年と同じく近森病院脳卒中認定看護師に依頼した。当院で遭遇する可能性が高い患

者の異変に気づき、アセスメントと必要なケアを実施でき、SBARで報告ができることを目的として企画している。前年度と同様に基本的な知識と技術の講義のあと、現場で実際ありうる場面を設定しロールプレイを行ったが昨年度よりも展開に工夫を加えた。

ロールプレイでは、まず、アセスメントと並行して観察技術を駆使して必要な情報収集を行えるように事例を工夫した。受講者がロールプレイを行ったのちに、認定看護師がモデルを提示し、思考のプロセスと根拠となる知識をレクチャーする形とした。

前年度より受講者数が増えており、看護師層も多様であった。この研修も現場からのニーズが一定数あるが、ターゲットとしている受講者層が自発的に集まらないことが課題として残っている。研修内容に対する受講者からの評価は好評であるが、現場での看護実践に役立ててほしい受講者層への動機づけなど受講促進活動を検討していく。

④抑うつ看護

今年度は、前年度の企画を踏襲した内容で集合研修を実施した。研修目的は、「抑うつ・認知症の精神症状に用いる薬剤について、当院で使用する薬剤についての知識を学び現場でのケアに役立てる」とこととした。事前に学習ニーズの把握を行い、講師に講義内容に反映していただくよう依頼した。担当講師は、病棟配属で業務を行っている薬剤師であり、入院患者の状態や看護ケアについてよく把握してくれていることもあり、講義内容は現場のケア実践につながるものであった。看護師以外の職種からも参加があり、受講者からは、薬の知識だけでなく、アセスメントやケアに活かせる内容であったとの高評価を得た。

【全体的な評価と課題】

感染症流行による集合研修開催への制限はなくなってきたが、集合研修への参加者数は①「急変時の対応」研修以外は大きな増加はなく伸び悩んでいる。2024年度は法人内で開催していたラダー研修（集合研修）がなくなったため、受講者のスケジュールに自由度が高まり受講者が増えると思われたが、あまり関係なかったようだ。研修テーマは実際に受講したスタッフには好評であったが、全体的な学習ニーズと教育ニーズのズレがあることも考えられる。

2025年度は、より現場のニーズに合致した内容と研修開催方法を検討し、少しずつ変化をさせながら継続していくとともに、看護部スタッフ全体の学習ニーズを把握し、反映していくことが必要と思われる。またeラーニングや院内のポータルサイトの研修システムを活用して教育活動をより効果効率的にしていくことも課題である。

3. 近森リハビリテーション病院介護福祉士教育委員会活動

(1) 活動実績

介護福祉士教育委員が年間の教育計画を立てて教育活動を行っている。集合研修のテーマは前年度末の活動評価と現場スタッフのニーズ調査に基づき、教育委員が選定している。2024年度の集合研修の開催実績を表3に示す。

当初は5月より症例検討会を開催する計画であったが、受講者が集まらなかったため延期とし、実際には7月から開催した。追加研修として、3月に回復期リハビリテーション病棟協会合

同研究大会参加報告会を開催した。これは、2月に札幌で開催された同研究大会にポスター発表した介護福祉士による報告会を急遽企画したものであったが、関心あるスタッフが参加し好評であった。

また2024年度は、前年度に介護福祉士全員を対象に行った学習ニーズ調査の結果とこれまでの集合研修の実績を合わせて検討し、介護福祉士向けのeラーニングシステムを導入した。法人看護部では既に看護師向けのeラーニングシステムを導入しているが、看護師向けのコンテンツが大半であったため、専門職としての介護福祉士が利用するには物足りなさがあった。そこで介護福祉士教育委員会では、複数の制作会社のものを比較検討し、最適なものを選択した。

年度途中9月からの導入となったため、広報や受講促進活動が遅れたこともあり、年度末での受講率は低かった。

表3 介護福祉士教育委員会勉強会

月 日	テーマ
7月30日	症例検討会
8月2日	症例報告会 急変時の対応について
11月26日	症例検討会
3月25日	回復期リハビリテーション病棟協会合同研究大会発表・参加報告会

(2) 評価と課題

症例検討会は、参加者が集まらなかったことにより、2ヶ月開始を遅らせることになった。症例検討会は、介護福祉士教育委員会が発足以降、10年近く継続しているものであり、そこで共有される実践知や考えは貴重な財産となっているため、今後も継続していく方針である。そもそも介護福祉士は人員が少ないため、集合できるスタッフ数にも限りがあるが、受講者が固定される傾向にある中、できるだけ多くの介護福祉士が1度は参加するよう、広報や動機づけを工夫する必要がある。

eラーニングの活用については、広報・受講促進活動を行うだけでなく、履修モデルを示すなどして自己研鑽への活用をすすめていく。また集合研修に活用するなどの工夫も検討する。

4. 看護補助者教育

1) 外国人特定技能実習生、技能実習生の入職時研修の実施

(1) 活動実績

インドネシアより入職した特定技能実習生、技能実習生に対して入職時研修を行った。

①特定技能実習生（7月入職）

法人に合計9名（うち当院には3名）の特定技能実習生が入職し、法人看護部で共通の入職時研修を実施した。

②技能実習生（2月入職）

当院に3名の技能実習生が入職したため、当院の入職時プログラムを実施した（表4）。
講師は主に当院の介護福祉士主任と介護福祉士教育委員が担当した。

表4 技能実習生入職時研修

月 日	テーマ
2月4日	オムツ交換、排泄介助、シーツ交換、環境整備
2月5日	清潔ケア、寝衣交換、整容、口腔ケア、冷電法
2月6日	入浴・シャワー介助、洗髪、手浴・足浴
2月7日	ノーリフトケア、歩行介助、テクノエイド、移送・移動介助

（2）評価と課題

現場でケアを実践している介護福祉士が講師をすることで、実習生は当院の現場での手順に基づき指導を受けることができ、業務へのスムーズな導入に効果的であった。また現場でOJTを担当する介護福祉士と顔を合わせることで、実習生の安心にもつながったようだ。介護福祉士が入職時研修の講師を担当することはこれまではほとんどなかったが、今回のように現場でのケア実践者が講師をすることはメリットが大変大きかった。今後もこのような形で介護福祉士が力を発揮できる機会を作っていきたい。

【資料】2024年（1月～12月） 学術発表・講演会等の活動

学会発表

演題	発表者 共同研究者	学会名	開催
食事摂取量の著しい低下がみられた認知症患者に対するケアの検討	上岡冬哉 岡本真由美	第43回 回復期リハビリテーション病棟研究大会	2024/3/8～3/9
当院の実績指数予測と実績指数の推移	岡部美枝	第43回 回復期リハビリテーション病棟研究大会	2024/3/8～3/9
近森会グループ看護部教育会活動のこれまでと今後	久保博美、森本志保、西本清香、中村里江、山崎成美	近森会グループ学術集会2024	2024/8/3
近森会看護部教育委員会活動報告（第1報）ラダーレベルⅡ「看護過程研修」活動報告	友草杏理、上田秀彰、上岡冬哉、吉本典子、中村里江	近森会グループ学術集会2024	2024/8/3
近森会看護部教育委員会活動報告（第2報）ラダーレベルⅡ「看護過程研修」の成果～自部署でのディスカッションを導入したことによる受講者の反応より～	中村里江、友草杏理、上田秀彰、上岡冬哉、吉本典子、武内麻衣	近森会グループ学術集会2024	2024/8/3
病棟から入退院センターへのタスクシフト	岩井千代美、永野智恵	近森会グループ学術集会2024	2024/8/3
特定技能者及び技能実習生と協働する現状の実際と課題～言葉と生活を重視する必要性～	松永智香	第28回日本看護管理学会学術集会	2024/8/23～24
回復期リハビリテーション病棟における教育活動—脳卒中再発の兆候を捉え対応する力の向上をめざして—	畠中麻衣、徳留裕也、中村里江	リハビリテーション・ケア合同研究大会山梨2024	2024/10/3～10/4

講演・外部講師

演題	演者	学会名	開催日
看護 DX とは	永野智恵	高知県高坂学園生涯大学	2024/7/5
ファーストレベル	松永智香	広島大学病院キャリア開発センター認定看護管理者教育課程	2024/10/5
セカンドレベル	松永智香	大阪府看護協会認定看護管理者教育課程	2024/5/31 2024/11/15
研修の学びと実践をつなぐ指導者のための研修	松永智香	日本看護協会神戸研修センター	2024/7/10
看護管理者研修	松永智香	日本精神科看護協会	2024/9/21 ～9/22

シンポジスト・座長

演題・テーマ	担当者名	主催	役割	開催日
精神症状や行動異常を呈する高齢者の診たてに抱く違和感を解決しよう	松永智香	日本老年看護学会 第 29 回学術集会	ランチョンセミナー 座長	2024/6/29～ 6/30
特定行為研修終了者と看護管理者の win-win コラボレーション	松永智香	第 55 回日本看護学会 学術集会	一般公募企画代表者	2024/9/27～ 29
一般演題；コロナ禍の看護 一般演題；医療安全	松永智香	第 49 回日本精神学会 学術集会	座長	2024/6/28～ 6/29
精神科看護コンgres管理職の人的資源開発	松永智香	第 49 回日本精神学会 学術集会	シンポジスト	2024/6/28～ 6/29
新たな資格を取得した認定看護管理者がキャリア支援する意味	松永智香	第 28 回日本看護管理学会学術集会	企画代表者	2024/8/23～ 8/24
看護管理者自身が元気になるためのマネジメントと看護職員を元気にするかかわり方	松永智香	第 28 回日本看護管理学会学術集会	話題提供者	2024/8/23～ 8/24

院外活動（外部委員・役員等）

団体名	委員・役員	氏名	期間
一般社団法人回復期リハビリテーション病棟協会	看護委員会委員	岡本真由美	2021/5～
一般社団法人高知県歯科衛生士会	監事	植田彩子	2023/6～
高知県リハビリテーション研究会	理事	植田彩子	2023/8～
高知県立大学看護学会	学会誌査読委員	中村里江	2015/4～

高知県看護協会	倫理審査委員	永野智恵	2024/4～
高知県看護協会	看護管理者支援事業委員会	松永智香	2024/4～
中央西保健所	在宅医療を支援する GW	松永智香	2024/4～
日本精神科看護協会	学術部会委員	松永智香	2024/4～
日本精神科看護協会	教育認定部会委員	松永智香	2024/4～
高知大学医学部附属病院	臨床研修審査委員会	松永智香	2024/4～
高知大学医学部附属病院	認定再生医療等委員会	松永智香	2024/4～

学校等への非常勤講師

学校名	講師	講義名
近森病院附属看護学校	岡部美枝	リハビリテーション概論
近森病院附属看護学校	遠藤恵	リハビリテーション概論
近森病院附属看護学校	畠中麻衣	リハビリテーション概論
近森病院附属看護学校	南和芳	リハビリテーション概論
近森病院附属看護学校	中村里江	リハビリテーション概論
高知福祉専門学校	中屋吉博	高次脳機能障害について
高知学園短期大学	植田彩子	歯科衛生士概論

資格取得・認定コースの修了

資格名、コース名	氏名	取得日もしくは修了年月日
回復期リハビリテーション病棟協会 回復期リハビリテーション看護師	竹池恵	2024
認定看護管理者教育課程 ファーストレベル	和田幸恵	2024
認定看護管理者更新	松永智香	2024
介護支援専門員	中屋吉博	2024/3/31

近森リハビリテーション病院 看護部 感染対策

4 階西病棟主任 岡林巧也

2024 年度 9 月以降、感染委員長不在にて代理として活動を行った。実際に委員長代理として活動する中で、スタッフの感染管理に対する意識や、知識の不十分さを痛感した。また、これまでの自分自身も感染対策委員の一員であったが、知識や意識の不十分さを実感した。まずは、感染業務を覚えることで手一杯であったが、徐々に業務にも慣れ、スタッフ指導も行った。活動していく中で、スタッフ周知への感染症週報を作成することは、県内の感染症状況に着目することができたことや、培養検査の結果をしっかりと確認し院内での多剤耐性菌の状況やそれに対してスタッフが意識を持ち、標準予防策や感染経路別予防策の徹底ができるように部屋などの感染経路別表示を行えているかなど、指導にあたることができ、自分自身にも有益となった。

また、COVID-19 が患者から出た時の対応や、スタッフが罹患したときの行動指針など、適宜報告や相談を受けることも行えた。ある程度の標準化ができてはいたが、徐々に対応を緩和してきたことでスタッフの迷いなどもあり、適時指導や相談も行えたと感じている。また、保健所や厚生支局といった視察・調査への対応も行い、これまで活動したとしても組織の中の感染対策委員の立ち位置や活動内容など、まだ不十分な知識があることも理解することができた。

第1	月			最近検出状況	アルコール使用量チェック →手指衛生サーベイランス	●職員感染状況の把握 ●感染対策実施状況の確認 ●UTIサーベイランス 随時 ●保健所立ち入り ●厚生支局立ち入り
	火			入退院チェック 後期若使用状況		
	水	ラウンド 6月・9月・12月・3月 感染対策向上加算 カンファレンス	感染対策向上加算 カンファレンス 10日前ぐらいに資料およびテーマに沿った報告書提出	ラウンド報告書作成		
	木			高知県感染状況チェック ユニット感染症情報作成 週報作成		
	金	週報配信				
第2	月			最近検出状況		
	火		リンクナース会議課題準備	入退院チェック 後期若使用状況		
	水	ラウンド リンクナース会	リンクナース会議事録	ラウンド報告書作成		
	木			高知県感染状況チェック ユニット感染症情報作成 週報作成		
	金	週報配信				
第3	月		近森会 感染対策委員会資料提出	最近検出状況		
	火			入退院チェック 後期若使用状況		
	水	ラウンド 近森会 感染対策委員会		ラウンド報告書作成		
	木			高知県感染状況チェック ユニット感染症情報作成 週報作成		
	金	週報配信				
第4	月			最近検出状況	手指衛生ラウンド 職場遵守報告を回収し(リンクナースより)まとめる	
	火		感染対策委員会議題・資料準備	入退院チェック 後期若使用状況		
	水	ラウンド リハ病院 感染対策委員会	感染対策委員会議事録	ラウンド報告書作成		
	木			高知県感染状況チェック ユニット感染症情報作成 週報作成		
	金	週報配信				